

日本外国特派員協会講演 参考資料

- (図表 1) 「展望レポート」の経済・物価見通し
- (図表 2) 2%インフレ目標達成の道筋
- (図表 3) 「量的・質的金融緩和」の波及ルート
- (図表 4) 世界経済成長率
- (図表 5) 潜在成長率
- (図表 6) 中長期的な予想物価上昇率

「展望レポート」の経済・物価見通し

(2013年4月26日)

▽ 政策委員の大勢見通し (2013~2015年度)

(< >内は政策委員見通しの中央値、対前年度比、%)

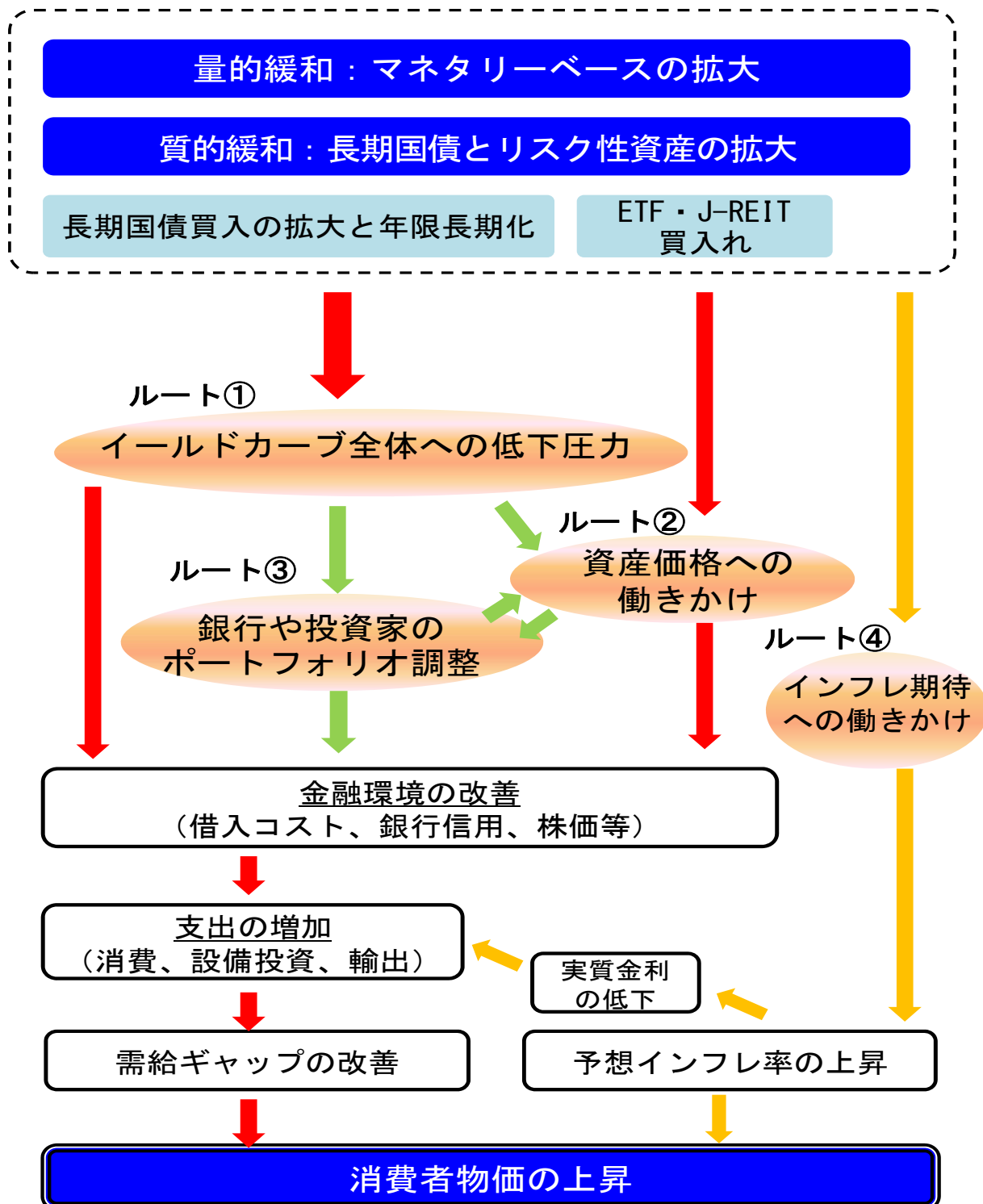
	実質GDP	消費者物価指数 (除く生鮮食品)	消費税率引き上げの 影響を除くケース
2013年度	+2.4~+3.0 <+2.9>	+0.4~+0.8 <+0.7>	
1月の見通し	+1.9~+2.5 <+2.3>	+0.3~+0.6 <+0.4>	
2014年度	+1.0~+1.5 <+1.4>	+2.7~+3.6 <+3.4>	+0.7~+1.6 <+1.4>
1月の見通し	+0.6~+1.0 <+0.8>	+2.5~+3.0 <+2.9>	+0.5~+1.0 <+0.9>
2015年度	+1.4~+1.9 <+1.6>	+1.6~+2.9 <+2.6>	+0.9~+2.2 <+1.9>

(図表2)

2%インフレ目標達成の道筋

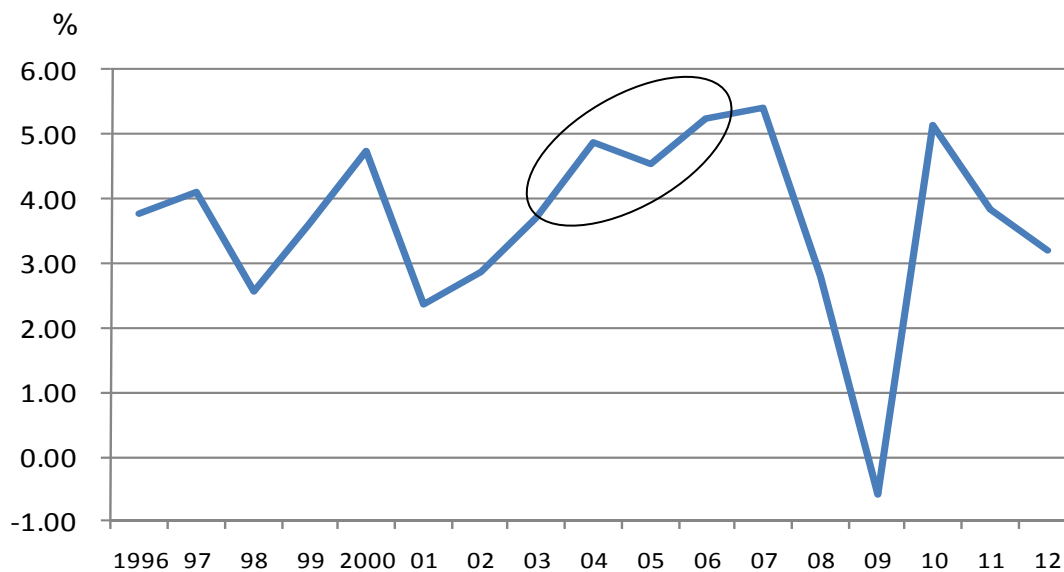
考慮すべき状況変化予想	景気回復・物価上昇に対する効果
①海外経済の持ち直し	→輸出・生産の回復基調を後押し
②米国長期金利の上昇	→資産価格・為替レートなど金融環境面でプラス
③企業の設備投資や構造変革	→潜在成長率の緩やかな上昇
④持続的な景気回復期待	→需給ギャップの改善を伴う物価上昇
⑤人々のインフレ予想の上昇	→①~④と共に物価上昇率1%程度へ
⑥①~⑤の好循環メカニズム	→トレンド・インフレの上昇と共に2%目標達成へ

「量的・質的金融緩和」の波及ルート



(図表4)

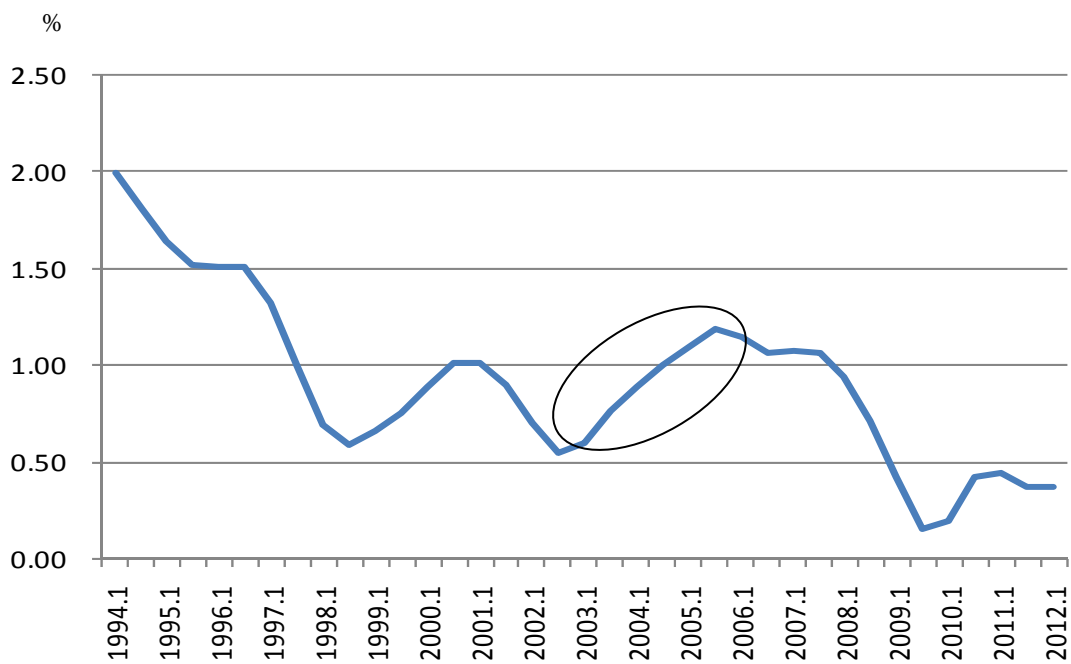
世界経済成長率



(出所) IMF「世界経済動向」

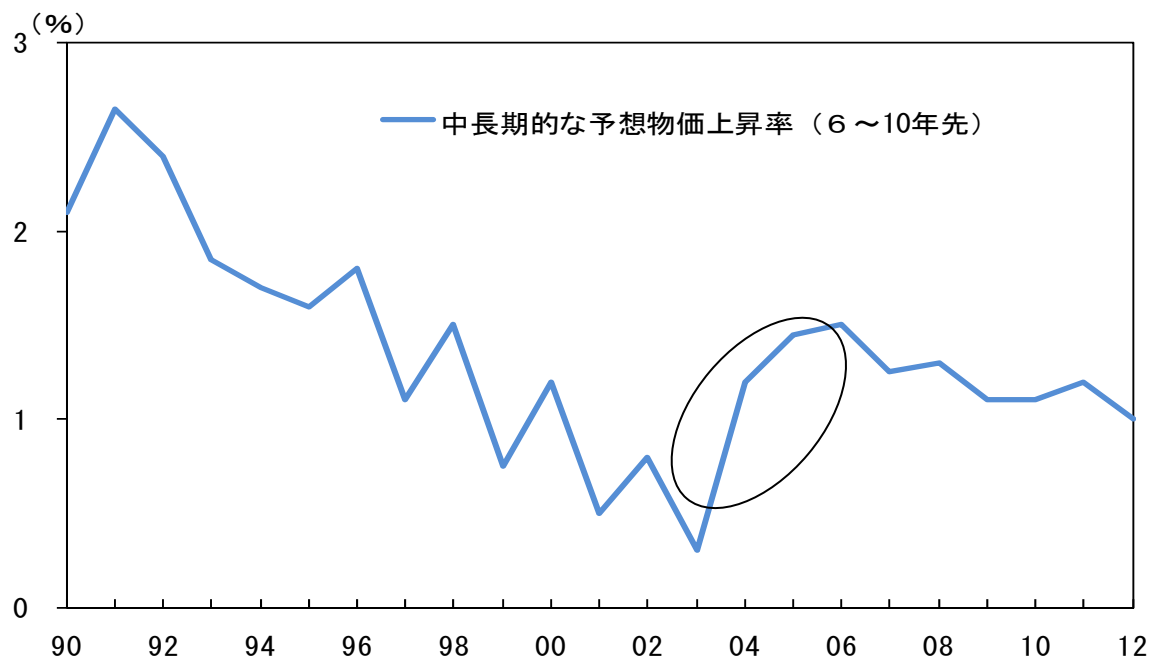
(図表5)

潜在成長率



(出所) 日本銀行

中長期的な予想物価上昇率



(注) 予想物価上昇率は、民間調査機関を対象にしたコンセンサス・フォーキャストによる消費者物価見通し（各年4月と10月時点の平均値）。

(出所) Consensus Economics「コンセンサス・フォーキャスト」